

＜株式会社エフエム東京 第 517 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 7 年 4 月 2 日（水）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊 尚 委員（レポート）
松 田 紀 子 委員	山 口 真 由 委員
柴 崎 友 香 委員	福 里 真 一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
内藤 博志	取締役執行役員コンテンツ事業局長
宮野 潤一	執行役員編成制作局長
山領 由紀	編成制作局制作部長
蘭 有紀子	編成制作局編成部長
高橋 智彦	編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 宮野放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（115 分/54 分）
特別番組 TOKYO FM 開局 55 年×NHK 放送 100 年記念
『ひとり进行、みんなの LIFE TIME AUDIO』
2025 年 3 月 20 日（木・祝） 13:00～14:55 放送

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■ 2025 年 2 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2025 年 2 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査(2025 年 2 月 3 日～9 日)において、当社は以下のとおり、主要 3 区分においていずれも在京首位を獲得しました。

- 男女 18～49 歳 : 単独首位 ※22 年 2 月以来 19 期連続首位
- 男女 12～59 歳 : 単独首位 ※22 年 2 月以来 19 期連続首位
- 男女 12～69 歳 : 単独首位 ※22 年 4 月以来 18 期連続首位

尚、2024 年度の聴取率の年間平均は、個人全体(12～69 歳)で、TOKYO FM が単独首位となりました。

1. TOKYO FM(0.6)
2. ニッポン放送/J-WAVE(0.5)
4. TBS ラジオ(0.4)
5. 文化放送(0.3)

■TOKYO FM 2025 年春の改編情報

編成制作局では 2025 年 4 月の番組改編を実施します。改編率は 8.4%となります。コアターゲットを中心に幅広い世代のリスナー層と共感しあえる多彩な顔ぶれの新番組をラインナップします。以下、主だった新番組を 4 月 1 日(火)よりスタートします。

『NiziU LOCKS!』 (JFN38 局ネット)

◇放送時間 : 毎月第 2 週 22:15-

◇出演者 : NiziU

若年層から絶大な人気を誇る 9 人組ガールズグループの NiziU が 4 月から『SCHOOL OF LOCK!』に仲間入り。NiziU がレギュラーラジオ番組のパーソナリティをつとめるのは初となります。毎月第 2 週目に毎回メンバーが代わる代わるの登場します。



『DEAN FUJIOKA New Calendar』 (東京ローカル)

◇放送時間 : 土曜日 12:00-12:30

◇出演者 : DEAN FUJIOKA

◇提供社 : フリービット

様々なカルチャーのバックグラウンドを持つ、シンガーソングライターの DEAN FUJIOKA の新レギュラー番組がスタート。この番組では土曜日の正午 12 時を 1 週間の起点と捉え “1 週間のスタート”を素敵な音楽とともに過ごすことを提案していくプログラム。



『No BUDDiiS』 (東京ローカル)

◇放送時間 : 土曜日 21:00-21:30

◇出演者 : BUDDiiS

音声コンテンツプラットフォーム “AuDee” で配信していた番組がついに地上波で放送スタート！EBiDAN 所属、10 人組ボーイズグループ「BUDDiiS」のメンバー達が、毎週様々な組み合わせで出演します。



『エンタメ Palette!!』 (東京ローカル)

◇放送時間 : 日曜日 5:00-5:55

◇出演者 : Nakamu、安藤咲良

人気ゲーム配信グループ「WhiteTails」のリーダー・Nakamu がソロ活動転身後、TOKYO FM のエンタメ情報番組のラジオパーソナリティに初挑戦！大のエンタメマニアの顔を持つ Nakamu が、日常をカラフルに彩るようなエンタメの魅力を分析し語り尽くす 55 分のプログラム。



『菊池風磨 hoursz』 (JFN38 局ネット)

◇放送時間 : 日曜日 11:00-11:30

◇出演者 : 菊池風磨

新メンバーオーディション企画で年初に話題を独占した timelessz メンバーの菊池風磨が待望のソロラジオ始動。自分の言葉でじっくり語る新トークプログラム。ひとりで喋るからこそ生まれる本音、素のままの菊池風磨が届ける自由なトーク。リスナーとの時間を一緒に作っていきます。ゲスト回ではここでしか聞けない特別トークも披露！



議題 2：番組視聴

【番組名】

特別番組 TOKYO FM 開局 55 年×NHK 放送 100 年記念

『ひとりを思う、みんなの LIFE TIME AUDIO』

2025 年 3 月 20 日（木・祝） 13:00～14:55 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、3 月 20 日（木・祝）に放送した特別番組 TOKYO FM 開局 55 年×NHK 放送 100 年記念『ひとりを思う、みんなの LIFE TIME AUDIO』のダイジェストです。

FM ラジオは音楽とともに歩んできた歴史があり、リスナーに新しい音楽を届けるためのプラットフォームとして進化してきました。今回、TOKYO FM 開局 55 周年と NHK ラジオ放送 100 年という節目を祝し、音楽に焦点を当てた特別番組を 2 局共同で制作しました。

パーソナリティを務めたのは、TOKYO FM 『Blue Ocean』パーソナリティで元 NHK アナウンサーの住吉美紀氏と、NHK ラジオの顔である高山哲哉アナウンサーの同期コンビ。ラジオ番組が届けてきた音楽がリスナーの人生にどのように響き、寄り添ってきたのか、エピソードとともに紹介しました。

さらに、赤坂泰彦(ラジオ DJ)、THE ALFEE(アーティスト)、ピーター・バラカン(音楽評論家)、松任谷正隆(音楽プロデューサー)ら、TOKYO FM と NHK-FM の歴代パーソナリティやアーティストから「ラジオとわたし」をテーマに寄せられた、スペシャルメッセージコメントを紹介。さらに、TOKYO FM 『SCHOOL OF LOCK!』(月曜-金曜 22:00～)で 2020 年まで 10 年に渡りパーソナリティを務め、10 代の声に耳を傾けてきた、お笑いトリオ・グランジの遠山大輔もゲストに登場。両局のリスナーからたくさんのラジオにまつわるエピソードが寄せられました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○学生時代からのヘビーリスナーではないので、歴代の名物 DJ の方々がたくさん出てくことに、古くからのラジオリスナーが感じるような震える感動はなかったが、楽しく聴かせていただいた。出演者たちが、本当にラジオが好きで、一つの世界を作っているのがよくわかる内容だった。特に印象的だったのは、「SCHOOL OF LOCK!」と一やま元校長が 3.11 直後の放送のときにどのような感情だったのか、どういった言葉遣い・音楽の選び方をしたとか、生だからこそリアルな、パーソナリティの人柄が丸出しになってしまうという話があり、本当に震えるような気持ちで制作をしていたことが、迫力、実感を持って知ることができた。

○もしプラスアルファで提案するとしたら、今までのラジオを振り返るというテーマで、どうしても過去の話が中心になってしまっていたので、これから先、100 周年 200 周年を目指そうというような、どういう視点で考えたら今後のラジオが続いていく、発展していく、新しい展開について聴いてみたかった。それぞれの世代を代表するパーソナリティの方が出演されていたので、彼ら彼女らの視点からの未来の展望を聴いてみたいと思った。

○この番組を聴いて、ラジオとは何かということのを改めて考えさせられる、良いキッカケになった。特に NHK 高山哲哉氏と住吉美紀氏、いずれも NHK のテレビ畑出身であるアナウンサーのラジオ感を聴けるところが個人的には非常に興味深かった。高山氏から、テレビは一つの作品を作り上げていくようなもので、リハーサルも入念にやる、しかしラジオはリハがないので自分自身が表に出るという発言があった。住吉氏も、ラジオは自分が出ないと心が伝わらないが、NHK では自分のプライベートを話さないから最初の頃は苦労した、と言っている。また、番組中で紹介された高田文夫氏の有名な発言でラジオは 10 年がワンクール、それだけの長さがないとリスナーと心が通わないということ。今やインターネットの巨大プラットフォームも曲がり角に来ていて、X は激しい政治的な対立が目立ち、誹謗中傷で傷つく人たちがたくさんいる。この荒々とした場に人々は疲弊している一方で Facebook や TikTok、YouTube は AI によってパーソナライズされ、バズりそうな気軽なコンテンツばかりが流れる場になってしまい、本来あったはずの人と人の心の交流が失われつつある。そういう状況で、アメリカのテック系メディアは、これからのインターネットは親密で小規模なコミュニティに回帰していくのではないかという予想を提示していたりする。確かにこの方向を期待する人は多く、そういう小規模コミュニティ志向のサービスもいくつか登場してきているの事実。この期待は実のところラジオの持っている特性と極めて近いのではないかと思う。リスナーとの親密空間こそがやはりラジオの魅力であり、だからこそ今

人々に期待されているところでもあるのだと思う。この番組を聴いてそんな風に思った。

○ラジオ 100 年と TOKYO FM55 周年、どうせなら 100 年と 50 年ならキリが良かったのにというのは冗談だが、とても気持ちよく聴かせていただいた。同時生放送という話題性も素晴らしい。これからラジオを一緒に盛り上げていくんだ、ということも伝わって来た。昔テレビでゆく年くる年を NHK と民放全局が同時放送していたが、テレビ全局で盛り上げていくぞ、というのを感じたのを思い出した。

○お 2 人が NHK 入局同期というのがとても意味があったのかと思う。最近のトレンドとして、文脈を抑えるというか、「実は同期でした」ということがとても受け入れられることがあり、広告界でもこういった、いわゆる胸アツな展開を抑えるという潮流がある。この番組を聴いていたリスナーも、今はそれぞれで活躍する同期の 2 人のタグに胸を熱くした人が多いのではないかと思う。

○番組の構成が、リスナーのメッセージ紹介と、そこにラジオと関係が深い有名人の方のコメントが時々入り込んでいく王道な展開だから安心して聞けた。それがすごくいいところであり、あえて何か指摘するとすれば、何かもう少し王道を外した工夫があってもいいかと思った。

○楽しく聴かせて頂いた。高山アナウンサーの声が NHK らしい声で、コラボをすることによって局の特徴がより際立って感じられた。そして改めて、ラジオというのはリスナーとの関係性でなりたっていると感じた。テレビとの違いは、視覚か聴覚ではなくて、視聴者・聴取者との距離感というのを実感した。そしてそこに焦点を当てて様々なリスナーの思い出を紹介していたのが大変興味深かった。特に FM 局ということで、そこで流れてきた音楽が自分の人生の中で転機や支えになったとうエピソードがとてもよくて、かかる音楽もグッとくるものがあった。松任谷正隆氏のコメントもとても腑に落ちるところがあるというか、ラジオの役割を考えるうえでとても秀逸だった。

○歴代パーソナリティの声が全て男性で、リスナーからのメッセージは女性パーソナリティの話も多く出てきていたので、女性パーソナリティの声も聴けたら良かった。

○非常に聴きやすい番組だった。ただ企画がとてもシンプルだと思った。放送 100 年と 55 周年、同期コンビなど、いろいろと背景があるので一周回ってシンプルにしたという意図があるかもしれないが、追悼番組など作り込んだ特別番組が多かった中で簡易に感じてしまった。ラジオの未来、というテーマを掲げていたのでもう少し一歩先にいった番組でも良かったのではという気持ちはあるが、日曜の昼

に聴くにはこの感じが正解なのでは、とも思った。

○作り込みをどこまでやればいいのか、やりすぎてしまわないか、というのは制作における課題で、とても難しいことだと思うが、このバランスが大事なのかと思う。

■貴重なご意見ありがとうございます。NHK と TOKYO FM で制作文化そのもの、例えばリハーサルをやるやらない、やアーカイブ量なども全く違うなかで、折衷案をとりながら制作を進めていった。そういう混ざり合う面白さもあったので今後も番組作りに活かしていきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

4月26日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>